

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に反映した主な事例（平成30年度）

経営協議会の学外委員からの意見	本学の取組状況
<p>◆千葉大学が取り組む収益事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>色々なものを売ったり、施設の貸し出しをするに当たって、例えば、今まで安く売っていたジャムや蜂蜜をもっとプレミアムなものとして売っていこうとすると、ブランディングとマーケティングが重要になってくると思う。大学で作られたものは当然安い、大学の施設だから高いお金を払って借りたくないというのが、一般的な考え方なのではないかと思う。学生も巻き込んで、もっと今風のブランディングとマーケティングで意識改革をしてはどうか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（平成30年9月20日 経営協議会）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境健康フィールド科学センターが生産している蜂蜜について、従来の柏の葉キャンパス、西千葉キャンパスに加えて、新たに亥鼻キャンパスでの生産を始め、千葉大学の製品としてブランド力を向上させた。</li> <li>環境健康フィールド科学センターが生産しているジャムについて、使用する果実によってスタンダードとプレミアムといった区別をし、原価計算や市場価格を考慮した価格改定やパッケージデザインの一新によるリブランディングを行った。</li> <li>千葉大学の経営面における現状への理解を深めることを目的として、毎年発行していた財務レポートを改め、財務情報に加えて教育・研究・社会貢献を中心とした事業活動の内容を記載した統合報告書を発行し、共同研究の相手先や寄附金獲得のための渉外活動に活用している。</li> </ul>
<p>◆千葉大学が取り組む収益事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>西千葉周辺の住民も学生を除くと高齢化していて、老いるということにどうしたらよいか、かなり興味を持っておられて、市民講座のようなものに対するニーズはかなりあるのではないかと。個人向けにやさしく解説するというテクニックが必要かと思うが、そういう経営資源はあるのではないかと。どういところで千葉大学の優位性があるかについて、もう少し議論されたら十分チャンスはあると思う。</li> <li>色々な先生がいるので、解説講座や資格講座は絶対必要だと思う。各先生に、自分はこういう講座をやりたい、こういう資格講座を作りたいと提案してもらってはどうか。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（平成30年9月20日 経営協議会）</p>	<p>一般社団法人千葉大学経済人倶楽部・絆と連携し、地域住民の方の関心が高いと思われる「予防医学の未来」「よりよく生きるを考える」「データサイエンス」「住み続けられるまちづくり」の4つをテーマに、公開講座を令和2年2月に開催した。</p>

<p>◆千葉大学が取り組む収益事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>博物館では、入場料収入以外に施設を活用した収入があり、全体的に使用できるお金を増やしている。大学においても資産を生かす1つの方策として、大学の教育力を生かして収入を上げてはどうか。具体的には、米国の大学では夏にサマースクールを開いていて、大学の寮内に宿泊させて授業料を取り、主に語学研修や教育を行っている。そういった正規の学生以外の方に向けて、大学の教育力を生かした事業というのはあるのではないか。</li> </ul> <p>(平成30年9月20日 経営協議会)</p>	<p>平成26年度より、サマープログラムやウィンタープログラム等の有償の体験型プログラムであるショートプログラムを実施し、留学生の受け入れを行っている。なお、令和元年度においては、1月末時点で13件のショートプログラムを実施している。</p>
<p>◆千葉大学が取り組む収益事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学の資産として施設があるので、その施設で試験等をやらせて収入を上げるということもある。一般に開放して、収入を得るということはもっと増やしてよいのではないかと思う。</li> </ul> <p>(平成30年9月20日 経営協議会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験や学会等の会場として施設を外部へ有償で貸付ける取り組みを積極的に行い、利用件数と収入の増加を図っている。外部からの問い合わせや要望に対しては、柔軟かつ迅速に対応し利用を促すとともに、民間水準を採用した料金設定により、年々収入を増やしている。</li> <li>従前より設置されている携帯電話基地局設備等のインフラ関係の設置料金についても随時見直し(値上げ)を行い、大学が適切な収入を得られるよう努めている。</li> </ul> <p>&lt;近年の収入実績&gt;</p> <p>平成29年度 53,394千円</p> <p>平成30年度 65,595千円</p> <p>令和元年度 79,582千円</p>

<p>◆千葉大学が取り組む収益事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ショップ、コンビニ、レストランやオリジナルグッズの販売も収入として上がるのではないかと。大学にとっては必須なものではないが、学生や教職員は便利になるだろうし、一般の人にとっても非常によいのではないかと。</li> </ul> <p>(平成30年9月20日 経営協議会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 平成30年度に販売を開始した千葉大学・パナマコーヒーに続き、メキシココーヒー及びタイランドコーヒーを新たにラインナップした。さらに、大学マスコットをデザインしたクッキー詰合せや大学ロゴマークをあしらった文具等(17種45商品)を企画・製作し、インフォメーションセンター、生協等において販売している。また、本学が年4回実施する地域連携イベントや式典、大学祭、シンポジウム等の学内イベントにおいて、オリジナルグッズの販売ブースを設けるなど、販売促進に取り組んでいる。</li> <li>• 収益にかかる各種業務について、一般財団法人千葉県経済人倶楽部「絆」と包括連携協定を締結し、共同して取り組んでいる。</li> </ul>
<p>◆授業料改定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業料改定を検討する時に、併せて奨学金制度も検討していただきたい。経済的に厳しくても優秀な人をどれだけ増やしていくかが大学の将来につながっていくのではないかと。</li> </ul> <p>(平成30年11月15日 経営協議会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ①授業料減免の対象者に対しては、標準額を上回る額を含めて減免</li> <li>②大学独自の奨学金制度により低所得者への支援を実施することにより、授業料免除者の規模を維持しつつ、経済的な困窮者への支援に継続して取り組んでいる。</li> <li>• 学部生については、留学等に係る相談業務に関する学内ワーク・スタディ(大学内における様々な事業やそれに伴うイベント、あるいは授業・学生生活を支援するための補助的な業務にスタッフとして採用する)に対し学内措置により更なる支援を今後行っていく。</li> <li>• 大学院生については、学修支援体制整備として、現在のティーチング・アシスタント(TA)経費を2023年度までに段階的に3倍の規模とするとともに、ティーチング・フェロー制度(教育支援業務を行う博士後期課程の大学院生への支援制度)の導入により、学生に対し更なる経済的支援を行っていく。</li> </ul>